グランドコンサイス英和辞典（凡例）

1. 見出し語

1. under・graduateのように構成要素のunderとgraduateが別に立項されているものは、要素の区切りに・を用い、アクセントを付す。人名の姓が見出しの場合、名はカタカナ表記の直後に付す。
2. 見出し語が2語以上からなる場合はアクセントを付すが、構成する語が、見出しとして別に立項されていないものについては発音を付す。
3. 語源の異なる語は、綴りが同じでも別見出しとし、右肩に小数字をつけた。

2. 派生語

1. 見出し語に対する派生語も独立した見出し語としてあつかった。これらの語の最後に親にあたる見出し語へのリンクをつけた。
2. 派生語の複合語のうち、その訳語から名詞であることが自明のものの品詞表示は省略した。

3. 複合語

1. 見出し語を含む複合語も独立した見出し語としてあつかった。これらの語の最後に親にあたる見出し語へのリンクをつけた。
2. 2字以上の略語を含む複合語にはアクセントはつけていない。
3. 訳語から名詞であることが自明のものの品詞表示は省略した。

4. 成句

1. 成句中では主語と同一人物を示す場合はoneを用いる。
2. …部分が相手や第三者を示す場合は訳語中で人を表す。

5. 発音・アクセント

1. 発音記号についてはIPA（国際音声記号）で表記する。原則として代表的な米発音を１つ掲載するが、注意すべき英音がある場合は/の後に併記した。
2. フランス語やドイツ語などの外国語についても英語化の進んだものは英語的な発音表記で示す。あまり英語化されていないものは原音の発音表記を用い、F.、G.のような言語の略号を付して原音であることを示した。（→言語略）
3. 見出し語に-less、-ly、-ed、-ingなどの接尾辞のついた派生語などは、発音記 号を示さずアクセントのみを付す。
4. ２語以上からなる見出し、複合語には原則として各構成要素に強または弱アクセントを１つ付す。ただし曲名など作品名のアクセントは省略した。

6. 品詞

略語を用いて示した。（→略語解）

7. 変化形

1. 原則として不規則変化するものを示した。ただし語尾が-oの名詞については、複数形か-esになるかを示した。
2. 変化形が見出しとしては立項されていない場合、変化形表示中に発音記号を示した。
3. 見出し語が２語以上で出てきている場合、また複合語については特に表示がない場合、最後の構成要素の変化形を引き継ぐものとする。

8. 類語

1. 語義の区分は、同列の場合はカンマ（,）で、展開がある場合はセミコロン（;）で示す。
   さらに大きな語義区分が必要な場合は[１]，[２]，[３]のような語義番号を使用する。
2. 〔侮蔑〕〔軽蔑〕〔差別〕〔卑〕などの注記のついた語義は強い不快感を与えるもので、人前での使用は不可である。注意を促すため、その

ニュアンスを反映させた訳語付けを行った。
3. 派生語（派生語の派生語、複合語の派生語）については、その親となる項目から類推しやすいものはその語義を省略した。
4. 見出し語と連結する副詞、前置詞などは訳語のあとに《for》などと示した。
5. 語義に対する同意語を訳語のあとに（　）を入れて示した。

9. ～を用いた省略

語形表示中で、当該の見出し語、派生語、複合語を表す。

10. かっこ・記号類

1. [　]　発音記号、前の語の言い換え
2. (　)　省略可能部分、変化形、語形、同意語、コロケーション
3. 〔　〕　スピーチラベル、ニュアンス
4. 《　》　説明
5. 【　】　専門語ラベル
6. →　参考/参照
7. ⇒　類語
8. -　1語の見出し語（派生語）の発音記号中に用いる場合はその各音節に該当する。複合語の発音記号中に用いる場合は構成要素となる各語に該当する。

注）スモールキャピタルで表示された語はその項を参照することを示す。

11. 略語解（自明は省略）

a.（adjective　形容詞）
ad.（adverb　副詞）
aux.v.（auxiliary verb　助動詞）
c.（circa　およそ）
cf.（compare　比較せよ）
comb.（combining form　結合辞）
conj.（conjunction　接続詞）
def.art.（definite article　定冠詞）
fem.（feminine　女性形）

indef.art. (indefinite article　不定冠詞)
int. (interjection　間投詞)
n. (noun　名詞)
p. (past　過去形)
pl. (plural　複数形)
p.p. (past participle　過去分詞)
pref. (prefix　接頭辞)
prep. (preposition　前置詞)
pron. (pronoun　代名詞)
rel.pron. (relative pronoun　関係代名詞)
Sh(ak). (Shakespeare)
sing. (singular　単数形)
suf. (suffix　接尾辞)
v. (verb　動詞)
vi. (intransitive verb　自動詞)
vt. (transitive verb　他動詞)
? (不詳)

12. 言語略

Am. (American)
Angl. (Anglican)
Anglo-F. (Anglo-French)
Arab. (Arabic)
Austral. (Australian)
Celt. (Celtic)
Chin. (Chinese)
Dan. (Danish)
Du. (Dutch)
E. (English)
F. (French)
Flem. (Flemish)
G. (German)
Gael. (Gaelic)
Gmc. (Germanic)

Gk. (Greek)
Heb. (Hebrew)
Hind. (Hindustani)
Icel. (Icelandic)
Ir. (Irish)
It. (Italian)
Jap. (Japanese)
L. (Latin)
LL. (Late Latin、Low Latin)
Mal. (Malayan)
ME. (Middle English)
MHG. (Middle High German)
Mod. GK (Modern Greek)
Mod. L (Modern Latin)
Norm. (Norman)
Norw. (Norwegian)
OE. (Old English)
OF. (Old French)
OHG. (Old High German)
ON. (Old Norse)
Per. (Persian)
Pol. (Polish)
Port. (Portuguese)
Russ. (Russian)
Scot.(Scottish)
Skt. (Sanskrit)
Slav. (Slavic)
Sp. (Spanish)
Sw. (Swedish)
Turk. (Turkish)
U.S.(United State)
Wel.(Welsh)
WS.(West Saxon)
Yidd.(Yiddish)

13. 著作権

グランドコンサイス英和辞典　　編者　三省堂編修所
(C) 2001-2017　　発行者　株式会社　三省堂
※ 本コンテンツは「デイリーコンサイス英和辞典 第9版」(三省堂、2016) から項目を増補しています。

グランドコンサイス和英辞典（凡例）

1 見出し語

現代かなづかいで示した。

2 派生語

見出し語から派生する形容詞、副詞、動詞などには▶をつけて示した。

3 複合語

複合語は見出しとしての検索が可能である。見出し語を含む複合語は原則として［複合］の後に 50 音順に列記する。但し「い 胃」のように見出し語が漢字 1 文字で表記されるようなものは、これを第一要素として含む語も複合語とはせず見出し語扱いとした。

4 語義の分類

大分類には ❶❷❸ の語義番号を用いた。さらに検索のうえから必要と思われる箇所には 〖 〗で語義内容を指示した。

5 訳語

1. 訳語の綴りは米式を採用し、英米で語が異なる場合は〔米〕〔英〕の表示を付した。
2. 英語訳語の並列にはセミコロン（；）を使用し，訳語の前の（　　）でその注解を示した。人名の場合、原則として姓を示してからカンマで区切って名を記すが、同姓の人物が複数いる場合は姓を統一の訳語として表示する。
3. 可算名詞には a, an をつけ、可算名詞にも不可算名詞にもなるものには (a)、(an) をつけた。民族名、部族名については原則としてその 1 員を訳語とし、a、an をつけた。

6 語源

日本語にはいっている英語以外の外来語についてはなるべくその語源を示した。

7 品詞

訳語（句）の前に、特にイタリックで *a.* 、*v.* などと表示した場合は、訳語が形容詞、動詞であることを示す。（→略語解）

8 用例

//以下に列記する。用例中で使用するスワングダッシュ（～）は見出し語部分と一致する。複合語の用例中でも見出し語に相当する部分のみに～を使用する。

9 イタリックの使用

日本語のローマ字表記（地名、人名は除く）、作品名の欧文,「属」「科」など動植物の分類を示すラテン語はイタリックで表記した。また訳語、用例中では以下に示す*a person, a thing, a matter*などにもイタリックを使用した。

（1）*a person*はその文の主語と異なる人であることを示す。所有格は*a person's*で表し*a person*に対応する所有格には*his*[*her*]を用いた。

（2）*one*はその文の主語と同一の人が主語となることを示す。所有格は*one's*で表す。*oneself*はそれぞれの場合に*myself, yourself*, ・・・などと置き換えて用いることを示す。

（3）*a thing, a matter, a place*はそれぞれ物、事柄、場所を示す。不特定の同種のものを示す際に*another*も用いた。

（4）*do, doing, done*はそれぞれ動詞の不定詞、動名詞、過去分詞が当てはまることを示す。

10 かっこの用法

1. ある語（句）がよく前置詞、that節、不定詞、動名詞などを従える場合はこれを（　　）に入れて示した。また前置詞の目的語の選択制限としてa personやa thingを同（　　）内に示す場合もある。
2. 動詞の目的語など、使用例を直接〔　〕内に示した。また、訳語などの後の説明には(　)を使用する。

3. [　] 前の語（句）との言換え、発音記号
4. (　) 省略可能部分
5. 〔　〕スピーチレベル、用法表示
6. 【　】専門語ラベル

11　記号類

1. [慣用] 日本語の慣用表現
2. [解説] 英語による解説記述
3. [関連] 見出し語を含まないが、これと関連する日本語表現
4. [参考] 見出し語と関係のある英語情報
5. [複合] 見出し語を含む複合語
6. →　参照

12　略語解

【品詞】

a.	(adjective 形容詞)	*prep*.	(preposition 前置詞)
ad.	(adverb 副詞)	*pron*.	(pronoun 代名詞)
int.	(interjection 間投詞)	*v*.	(verb 動詞)
n.	(noun 名詞)	*vi*.	(intransitive verb 自動詞)
pl.	(plural 複数形)	*vt*.	(transitive verb 他動詞)

【語源】

Chin.	(Chinese)	It.	(Italian)
Du.	(Dutch)	Kor.	(Korean)
F.	(French)	L.	(Latin)
G.	(German)	Port.	(Portuguese)
Gk.	(Greek)	Russ.	(Russian)
Heb.	(Hebrew)	Skt.	(Sanskrit)
Hind.	(Hindustani)	Sp.	(Spanish)

〔米〕米語　〔英〕英語　〔口〕口語
〔俗〕俗語　〔豪〕オーストラリア英語　〔古〕古語

13. 著作権

グランドコンサイス和英辞典　編者　三省堂編修所
(C) Sanseido Co., Ltd. 2001-2017　発行者　株式会社 三省堂